

雌阿寒岳の火山活動解説資料

札幌管区气象台
地域火山監視・警報センター

雌阿寒岳で、12月8日06時頃からポンマチネシリ火口付近で火山性地震が一時的に増加しています。

雌阿寒岳では、過去にも一時的な地震増加を繰り返した例がありますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

<噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）が継続>

○活動概況

・地震及び微動の発生状況（図1～3）

8日06時頃からポンマチネシリ火口付近を震源とする振幅の小さな火山性地震が増加しています。1時間あたりの地震回数は06時台が44回（速報値）で、その後はやや減少しながらも30回前後が続いています。8日の地震回数は13時までで220回（速報値）となりました。日回数が200回以上となったのは2018年11月23日の725回以来のことです。

火山性微動は観測されていません。

・噴気など表面現象の状況（図4～5）

山麓の監視カメラによると、ポンマチネシリ96-1火口、赤沼火口及び北西斜面06噴気孔列、中マチネシリ火口の噴気の状況には特段の変化はありません。

・地殻変動の状況

GNSS連続観測及び傾斜計による観測では、今回の地震増加に関連すると考えられる特段の変化は認められていません。

○活動評価

雌阿寒岳では、2023年6月29～30日にポンマチネシリ火口付近を震源とする振幅の小さな火山性地震が増加しました。地震回数は2日間の合計で253回となりました。その後、火山性地震は8月までわずかに多い状態が続きましたが、9月以降は少なく経過していました。また、各火口の噴気活動、地殻変動にも特段の変化は認められず、火山活動は静穏な状況で推移していました。

雌阿寒岳では、過去にも1日に100回を超えるような地震増加を繰り返した例がありますので、今後の火山活動の推移には注意する必要があります。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

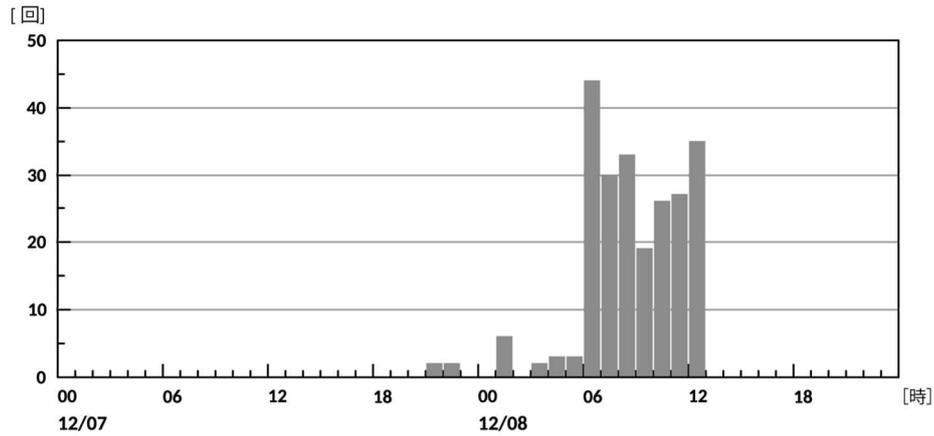
本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』及び『基盤地図情報』を使用しています。

(a) 雌阿寒岳 時間別イベント回数



(b) 雌阿寒岳 最大振幅 (オンネトー南東 短周期変位 南北成分)

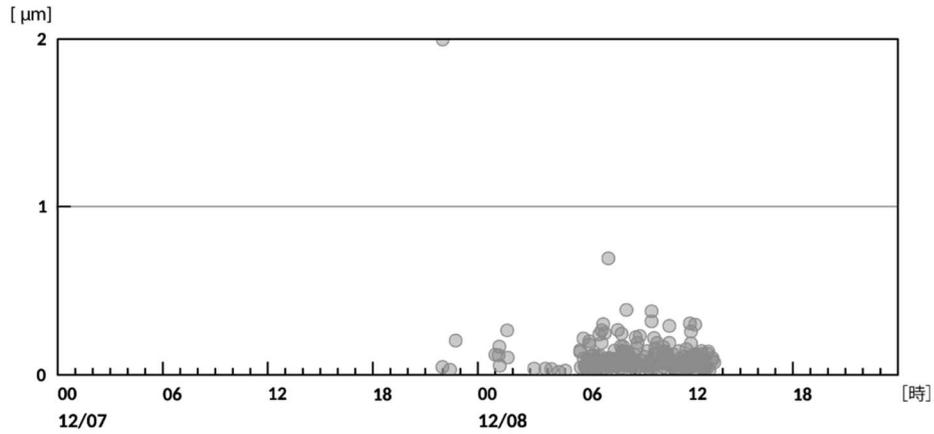


図1 雌阿寒岳 火山性地震の発生状況 (12月7日～8日13時)

(a) 特別地震回数 (速報値) (b) オンネトー南東観測点南北成分の変位最大振幅

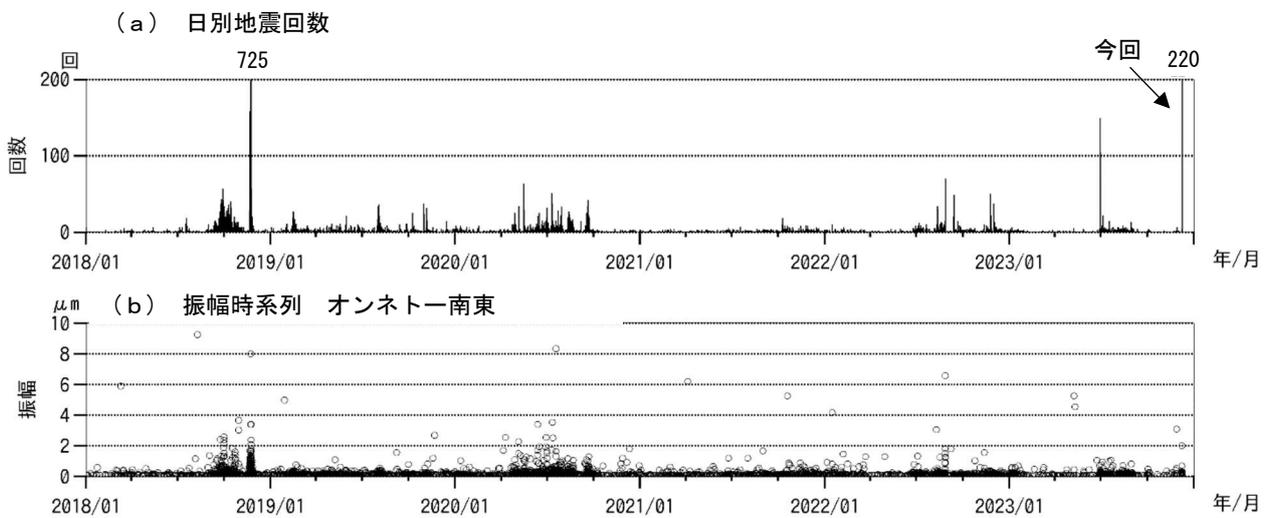


図2 雌阿寒岳 火山性地震の発生状況 (2018年1月1日～2023年12月8日13時)

(a) 日別地震回数 (速報値) (b) オンネトー南東観測点南北成分の変位最大振幅

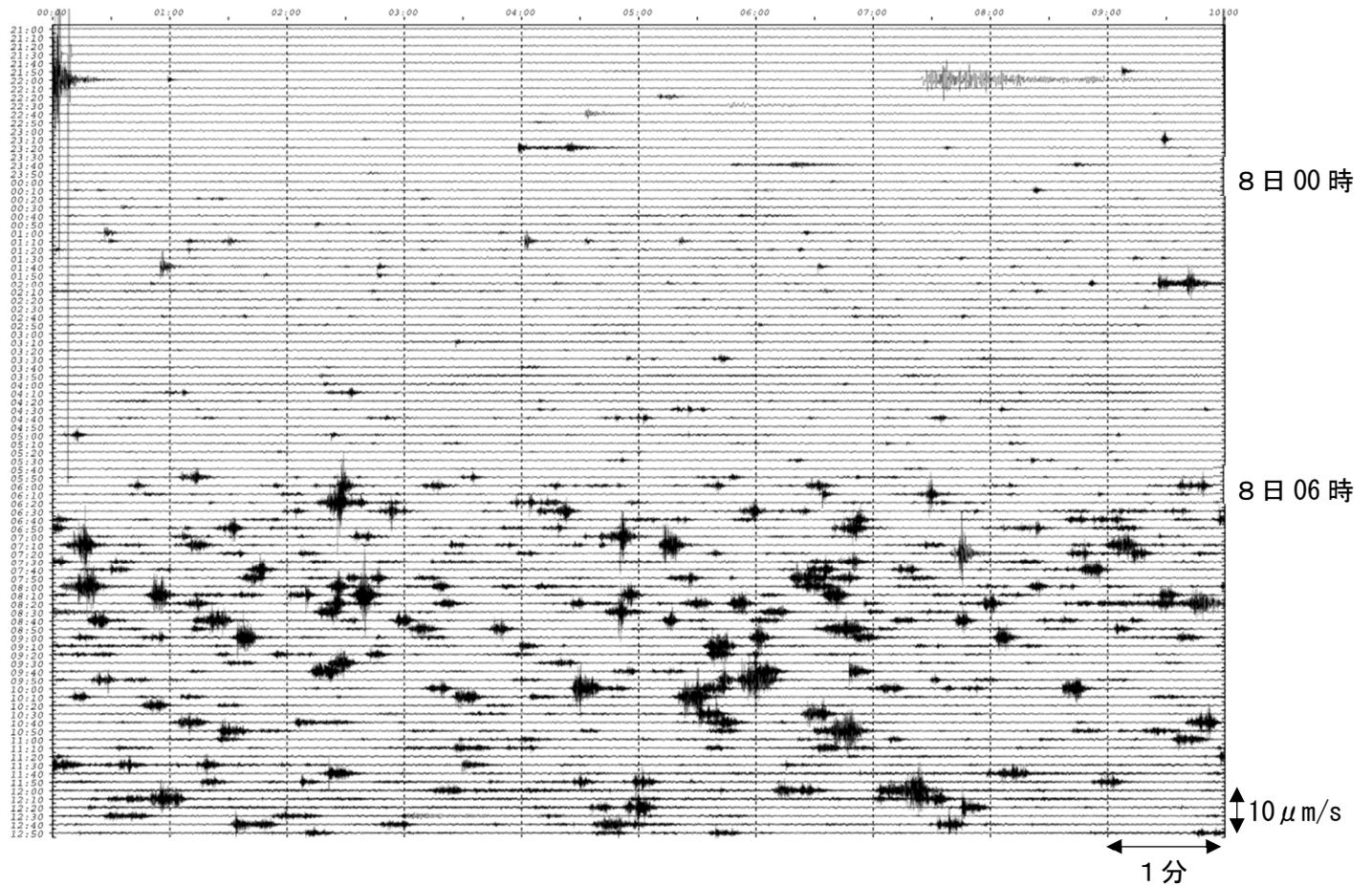


図3 雌阿寒岳 オンネトー南東観測点の上下速度波形（12月7日21時～8日13時）



図4 雌阿寒岳 南東側から見た赤沼火口、96-1 火口及び中マチネシリ火口の状況
(かみてしべつ上徹別監視カメラによる)



図5 雌阿寒岳 西側から見た赤沼火口及び北西斜面06 噴気孔列の状況
(オンネトー展望台(道)監視カメラによる)

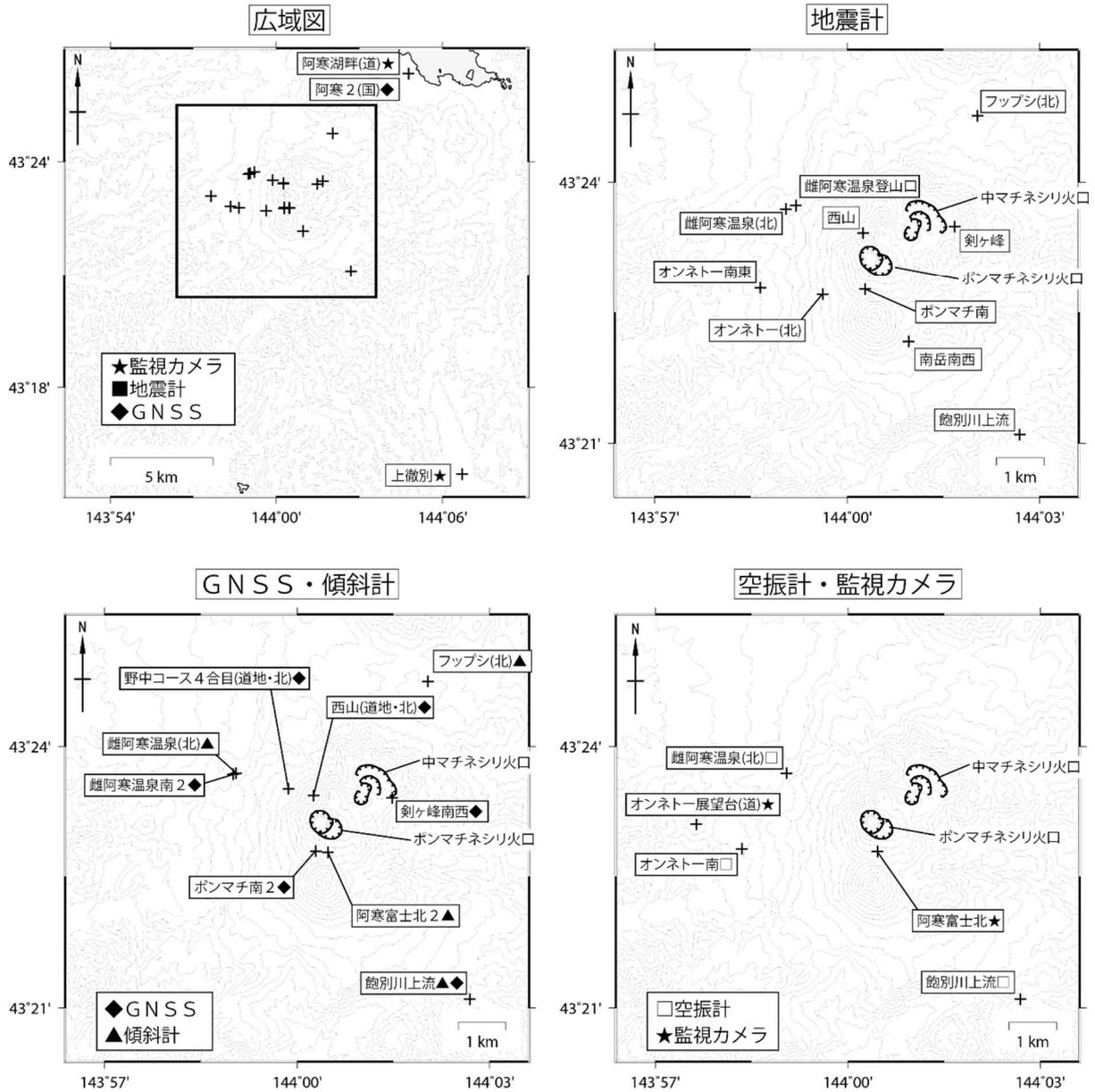


図6 雌阿寒岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の太枠線で示した領域を拡大したものです。

- + : 観測点の位置
- (国) : 国土地理院 (北) : 北海道大学
- (道) : 北海道
- (道地) : 地方独立行政法人北海道立総合研究機構
エネルギー・環境・地質研究所

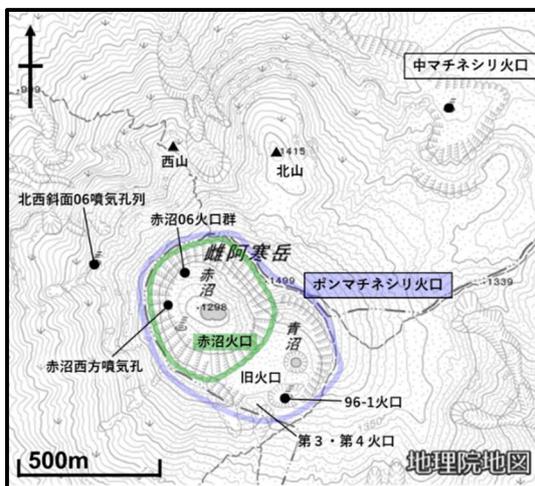


図7 雌阿寒岳 火口周辺図